

法淳寺の本堂は市内で1番古い!

濁川地区にある森島山 法淳寺は、浄土真宗大谷派（東本願寺）の寺院です。

建立などの由来については、次のように伝えられています。

村の寺之山というところに願浄寺という名の古刹がありました。しかし、正保年間（1644～48）の後に起きた水害で、村人は散り散りになってしまいました。幸いご本尊が残っていたので、村に人が戻り、村人が増えてきました。そこで、1676（延宝4）年、現在のお堂を建立しました。開基は泰淳（法淳とも伝える）です。

現在のご本尊の木仏は、下野国那須郡片平村の常円寺（現 栃木県那須郡那珂川町片平）から移って来たものと伝わっています。このご本尊は「濁川は有縁の地なので、速やかに我を送れ

よ」と、門徒の1人の夢に毎晩現れて仰せられたので、この寺の靈仏としてお迎えしたそうです。

本堂は、市指定文化財です。桁行12.9m、梁間13mの比較的小さな建物です。堂内は、一部を除いて1間（約1.8m）ごとに角柱が立つ古い形で、柱をなるべく少なくして大空間を作る、のちの浄土真宗の本堂とは対称的な姿です。

伝えられる建立時期の姿がよく残っていることから、2001（平成13）年に市指定文化財となりました。約330年前の本堂は、新潟市の寺院の本堂としては最も古い建物です。また、県内の浄土真宗の本堂としても、最も古い時期の建物です。



本堂正面

本堂内陣